

令和4年度 農山漁村振興交付金(農泊推進対策)
事業実施主体 評価一覧

1. 事業評価の実施

令和4年度に実施された「農山漁村振興交付金(農泊推進対策)」の事業について、「農山漁村振興交付金(農泊推進対策)実施要領」(令和4年4月1日付け3農振第2980号農林水産省農村振興局長通知)第14の2の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 事業評価結果の総括

令和4年度に交付金事業を実施した北海道内の6地区について、取組の実施状況、成果等を総合的に評価した。
その結果、優良と認められる地区が3地区、良好と認められる地区が1地区、総合的に低調と認められる地区が2地区との評価結果となった。
総合的に低調と認められる地区に対しては、重点的な指導、助言等を行う。
また、今年度の評価対象ではないが昨年度に重点指導の対象となっていた8地区について、重点指導の結果を評価した。その結果、来年度も引き続き重点的な指導、助言等を行う地区は4地区であった。

3. 各地区の評価結果

14件(うち8地区は、今年度評価対象ではないが昨年度重点指導となっていた地区)

農政局等	都道府県	市 町 村	事業実施主体名	事業実施段階								評価	評 価 コ メ ン ト
				R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8		
本省	北海道	七飯町	七飯大沼農泊観光推進協議会 (どさんこミュゼ株式会社)	■ ▼	▲ ▼	▲ ▼	▲	/	/	/	/	/	平成30年度に事業は完了しているが、引き続きの重点指導対象となっており、今年度は昨年度の重点指導結果の報告のみ。
本省	北海道	函館市	函館歴史建築活用協議会 (株式会社NOTE函館)	● ★ ▼	● ★ ▲ ▼	■ ◆ ▲ ▼	▲ ▼	△	/	/	/	/	令和2年度に事業は完了しているが、引き続きの重点指導対象となっており、今年度は昨年度の重点指導結果の報告のみ。なお、来年度も引き続き重点指導の対象となる。
本省	北海道	美唄市	びばい食農アートまちづくり 推進協議会	●	●	● ■ ▼	▲	/	/	/	/	/	令和3年度に事業は完了しているが、引き続きの重点指導対象となっており、今年度は昨年度の重点指導結果の報告のみ。
本省	北海道	八雲町	落部ブルーーツーリズム推進 協議会	● ▼	● ▲	● ■ ▼	▲	/	/	/	/	/	令和3年度に事業は完了しているが、引き続きの重点指導対象となっており、今年度は昨年度の重点指導結果の報告のみ。
本省	北海道	長万部町	長万部町観光地域づくり協 議会	● ▼	● ▲	● ■ ▼	▲ ▼	△	/	/	/	/	令和3年度に事業は完了しているが、引き続きの重点指導対象となっており、今年度は昨年度の重点指導結果の報告のみ。なお、来年度も引き続き重点指導の対象となる。

本省	北海道	新十津川町	新十津川農泊推進協議会	●	●	● ▼	▲							令和3年度に事業は完了しているが、引き続きの重点指導対象となっており、今年度は昨年度の重点指導結果の報告のみ。
本省	北海道	広尾町	ピロロツーリズム推進協議会	●	●	● ▼	▲ ▼	△						令和3年度に事業は完了しているが、引き続きの重点指導対象となっており、今年度は昨年度の重点指導結果の報告のみ。なお、来年度も引き続き重点指導の対象となる。
本省	北海道	東神楽町	東神楽町農泊推進協議会		●	● ▼	▲ ▼	△						令和3年度に事業は完了しているが、引き続きの重点指導対象となっており、今年度は昨年度の重点指導結果の報告のみ。なお、来年度も引き続き重点指導の対象となる。
本省	北海道	栗山町	栗山町 (栗山町農泊推進対策協議会)		★		◆ ▼	△					C	総合的に目標の達成状況が低調と認められる。
本省	北海道	岩見沢市	北村地域農泊推進協議会		●	●	● ■						B	総合的に目標の達成状況が良好と認められる。
本省	北海道	赤井川村	赤井川村農泊推進協議会			● ▼	● ■ ▲ ▼	△					C	総合的に目標の達成状況が低調と認められる。
本省	北海道	仁木町	仁木町ワイツーリズム推進協議会 (株式会社NIKI Hills ヴィレッジ)				● ★	○ □	◇				A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
本省	北海道	中川町	中川町農泊推進協議会				●	○ □					A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。
本省	北海道	浦幌町	十勝うらほろ農泊交流・発酵熟成協議会				●	○ □					A	総合的に目標の達成状況が優良と認められる。

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ソフト対策 ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)
ハード対策 ☆…交付対象年度(計画) ★…交付対象年度(実施済) ◇…目標年度(計画) ◆…目標年度(実施済)
重点指導 ▼…重点指導(通知) △…重点指導(結果報告予定) ▲…重点指導(結果報告)

(注2) 「評価」の区分: A…優良 B…良好 C…低調 評価対象外…評価対象外

4. 第三者機関の意見聴取

農山漁村振興交付金(農泊推進対策)実施要領(令和4年4月1日付け3農振第2980号農林水産省農村振興局長通知)第14の3の規定に基づき、第三者機関である「農山漁村振興交付金(都市農村交流等)評価委員会」を組織し、評価に当たり意見の聴取を行った。評価委員会の委員及び開催概要は以下のとおり。

【評価委員会 委員】

委員長:大江靖雄(東京農業大学教授)

委員:市田知子(明治大学教授)、加藤由紀子(北海商科大学非常勤講師)、木村宏(北海道大学教授)、森久美子(作家・拓殖大学北海道短期大学客員教授)

【令和5年度評価委員会の開催概要】

第1回評価委員会
1 日 時 :令和5年7月20日(木) 9:00～12:00 2 場 所 :農林水産省農村振興局第2会議室 3 議事概要 ① 令和5年度評価対象地区の評価方法について 本年度の評価方法について、説明を行い了承を得た。 ② 令和5年度評価対象地区の評価及び取組状況について 令和4年度に事業を実施した6地区の取組概要、評価案及び評価が低調と認められる地区に対する重点指導案に関して説明し、質疑応答を行った。 また、今年度の評価対象外ではあるが、昨年度に重点指導対象となっていた8地区の重点指導結果に関して説明し、質疑応答を行った。 4 主な意見 ・農泊以外の宿泊者が多い地域もあり、これらの者を農泊に取り込むことができないのか。 ・情報発信がうまくできていない地区が見受けられるので情報発信の方法についても指導すべき。 ・コロナの流行に伴い一般的な農家民泊は難しくなってきていると思われる。地域の分業体制等の検討が必要。
第2回評価委員会
1 日 時 :令和5年8月8日(火) 9:00～10:45 2 場 所 :ホテルベルクラシック北見4階会議室(オーロラロイヤル) (本省web会場:農林水産省農村振興局打合せスペース) 3 概 要 第1回評価委員会における質問への回答及び評価結果案 令和4年度に事業を実施した6地区の評価案等に関して、了承を得た。 また、今年度の評価対象外ではあるが、昨年度に重点指導対象となっていた8地区の重点指導結果に関して、了解を得た。 4 主な意見 事業実施地区だけでなく近隣地区も巻き込んだ取組を指導していくことも必要。

事業実施主体名： 七飯大沼農泊観光推進協議会・どさんこミュゼ株式会社

令和5年8月24日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
北海道 七飯町	平成29年	モニターツアーや専門家からのアドバイスなどにより、牧場における長期・滞在型の体験交流や、地域の農家等と連携した体験交流などを構築し、農泊のビジネス化を図る。	拠点となる牧場内に、ドミトリ型滞泊施設の整備。 体験農園に係る施設整備。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

令和2年度以降、牧場における体験受入等の既存の取組の他、地域外の新しい者との連携により高校生などを対象とした体験交流の取組、地域内の民泊事業者等と連携したイベントの開催、近隣の空港でのマルシェイベントの開催等により、農林漁業体験者数や売上高の増加を図っている。 令和3年度は、事業実施中から行ってきた牧場暮らし体験や研修生の受け入れが発展した、個人客や家族向けワーケーションの取組などにより、宿泊施設の利用実績は伸びてきている。 新型コロナウイルス感染症の影響が長引き、活動が制限され、地域の活力が未だ戻らない中、地域としての農泊を推進するには課題が山積している状況ではあるものの、取組内容や実施体制について適宜見直しを行い、しっかりと事業が推進されるための体制を整備し、効果の高い取組を期待したい。

2. 低調と評価された要因

整備した宿泊施設については稼働率が改善し、目標値を上回っているが、他方、地域の農泊の取組については様々な取組がなされたものの、地域全体としてはまだ休業している観光施設も多く、地域全体としての農泊は、低調な状況であったため。
--

3. 目標達成に向けた方策

これまでの取組の成果に加え、取組内容の充実・強化、新たな取組の実施、実施体制の見直し等を行い、本地域における農泊の取組を確実に推進していくことが必要である。 新型コロナウイルス感染症の影響などで地域の活力が低下する中、例えば、来訪者の本地域での滞在時間や消費額を増やすための実効性のある方策を検討し、売上高と農林漁業体験者の目標達成に取り組むこと。
--

4. 改善状況

令和4年度における目標に対する達成状況としては、整備した宿泊施設においては売上高は99%、利用者数は90%とほぼ目標値を達成し、地域の売上高も97%、地域の農林漁業体験者数については158%の達成率となった。 取組の中心である牧場においては、牧場暮らし体験や森暮らし体験などの受け入れを、事業実施当時から継続的に行っている。また、令和3年度からNPO法人などと連携して、小中高生などの教育旅行を受け入れており、令和4年度においても引き続き受け入れている。コロナの影響が依然として残っており、近隣の学校からの受け入れが主となっているが、今後はより売上の上が見込める、遠方の学校からの受け入れも行っていきたいと考えている。 また、近隣の農家等との連携も始まっており、農業体験の受け入れも再開してきている。更に、近隣の空港でのイベントに参加して地域のPRを行うなど、情報発信も積極的に行っている。 以上のように、取組の成果に加え、取組内容の充実・強化、新たな取組の実施、実施体制の強化が図られており、今後とも自立して農泊が推進されると見込まれることから、今後の指導は必要ないとする。
--

事業実施主体名： 函館歴史建築活用協議会・株式会社NOTE函館

令和5年8月24日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
北海道 函館市	令和元年	函館を満喫できる体験プログラム等を開発・運営し、文化レベルの高い客層を誘致。また、地域連携型のプログラム開発や運営を担う人材を育成し、持続的・発展的な取り組みとする。	空き家を改修し、国内外の富裕層をターゲットとする「漁業と異国文化の港町・函館」を体感できる宿泊施設・レストランとして活用する。

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

ソフト事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により、取組をほとんど実施できなかった。実施体制は機能しているが、「売上高」及び「延べ宿泊者数」とも目標に大きく届かなかった。

ハード事業については、コロナ禍であっても施設を整備して開業させ、ある程度良好な施設運営に向けた取組がなされた。実施体制も事業の実施に支障をきたしていないが、「売上高」「延べ宿泊者数」のいずれも目標に大きく届かなかった。

整備した施設を拠点として、開発した体験プログラム等を活かした取組を推進することで、十分な成果を挙げることを期待したい。

2. 低調と評価された要因

ソフト事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により、取組がほとんど実施できなかったこと、及び「売上高」「延べ宿泊者数」のいずれも目標に大きく届かなかったこと。

ハード事業については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、「売上高」「延べ宿泊者数」のいずれも目標に大きく届かなかったこと。

3. 目標達成に向けた方策

事業により整備した施設を拠点として函館エリアにおける農泊の魅力を発信することで誘客を行うなど、ソフトとハードを併せ行うことにより、来訪者の増加を図ること。整備した施設を活用して地域としての受入を行うため、開発した体験プログラムを再開し、売上高と延べ宿泊者数の目標達成に向けて取り組む。

4. 改善状況

令和4年度の実績については、達成率として、売上高:36%(令和3年度は17%)、延べ宿泊者数は32%(令和3年度は19%)となっており、目標には大きく届かないものの、増加傾向である。売上高については宿泊の売上とレストランの売上が計上されている。

一方、体験プログラムについては、令和4年度も実施することができなかった。

なお、令和5年度における体験プログラムの再開については、事業実施主体において現在検討中である。

事業実施主体名: びばい食農アートまちづくり推進協議会

令和5年8月24日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
北海道 美唄市	令和元年度	地域資源である農とアートのコラボで世界に発信し、交流の盛んなまちづくりを進めることによって、農泊を推進し、地域住民の所得向上と地域の活性化を図る。	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

新型コロナウイルス感染症の影響がある中、可能な範囲で取組が行われ、計画に定められた取組内容はおおむね実施された。実施体制についても計画どおりに整備された。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響で人の移動が制限されたことから、「売上高」「延べ宿泊者数」とも目標に大きく届かない結果となった。事業で整備・開発した推進体制、体験コンテンツや食のメニューなどを活用し、実績を挙げるための更なる取組を期待したい。

2. 低調と評価された要因

「売上高」及び「延べ宿泊者数」のいずれも目標に大きく届かなかったため。

3. 目標達成に向けた方策

本事業により開発された農の体験コンテンツや地元食材を使ったメニュー等を引き続き活用するとともに、雪蔵等の本地域特有の地域資源にも着目し、訪れた方が本地域を満喫できる仕組みを構築すること。
更に、新しくできた宿泊施設を本地域における農泊の拠点として活用すること。

4. 改善状況

令和4年度は、達成率において「売上高」は162%、「延べ宿泊者数」は156%と目標を上回る成果があった。
体験コンテンツとしてはハスカップ収穫体験などが行われ、食の面でも、市内のカフェで事業で開発したハーブティーなどが提供されたり、地域の特産品であるアスパラひつじを活用したメニューなどが提供されるなど、取組が行われている。
新しく開設された駅前の宿泊施設においては、入口のフロント近くにカフェを設け、交流と併せて美唄市や周辺地域の情報を発信するスペースとなっており、拠点の一つとして活用されている。
現在は新しい組織(一般社団法人ステイびばい:地域DMO(候補DMO)として登録)において、農泊事業における成果も取り込みながら、より大きな組織、より大きな視点での観光受入の取組が行われており、自立して農泊が推進されると見込まれることから、今後の指導は必要ないとする。

事業実施主体名：落部ブルーツーリズム推進協議会

令和5年8月24日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
北海道 八雲町	令和元年度	漁業者(漁業協同組合)・地域企業・地域住民・行政が一体となり、受入体制の構築やコンテンツの造成を行うことで、地域の知名度向上を図り、観光客を取り込むことで収益の増加を図る。	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

取組内容は、計画していた内容がほぼ実施され、実施体制も計画どおりに整備された。事業実績については、物販イベントの開催等により「売上高」についてはある程度の実績があったが、「延べ宿泊者数」については、新型コロナウイルス感染症の影響により目標値に大きく届かなかった。しかしながら、前回評価した令和元年度からは大幅に実績値を増加させており、コロナ禍においても活動を工夫し、実績を伸ばしていることは評価できる。

事業により創出した体験コンテンツ等を活かす他、物販の体制構築やワーケーションの受け入れ検討など事業の成果を活かして、更なる発展を期待したい。

2. 低調と評価された要因

「延べ宿泊者数」について、新型コロナウイルス感染症の影響により、修学旅行の受け入れがなくなり、国内旅行客も減少したことから、目標値に大きく届かなかったため。

3. 目標達成に向けた方策

事業で構築された推進体制を活かし、造成された体験コンテンツを活用して、引き続き農泊の取組を推進する。

令和3年度に参加していた、近隣の都市や函館空港などでのイベントに引き続き参加することにより、売上の確保とPRを図る。またマイクロツーリズムの推進などによる近隣の観光客の取り組みも含めて、延べ宿泊者数の増加に取り組む。

4. 改善状況

都会に比べて新型コロナウイルス感染症への警戒感が強く残る中、日帰りでの体験客が多くなったこともあるが、新幹線延伸に伴う工事関係者の宿泊需要により、地域内での観光客の宿泊が非常に少ない状況であり、地域外(八雲町の中心部など)で宿泊して落部地域に体験に来る形となっている。

しかしながら、体験(ホタテ吊り、牡蠣の殻剥き、酪農体験(子牛への哺乳体験)、ネギの収穫など)受入は戻ってきおり、函館空港でのイベントなどによる販売売上や来訪者の飲食店利用による売上もあることから、売上高については127%の達成率となり、目標を達成している。

宿泊施設の状況は、新幹線の工事事情がしばらくは変わらないことから、地域内での農泊の宿泊者数の増加は当面望めないものの、売上高は目標を達成している他、取組体制も構築され、旅行会社とのつながりもあるなど、農泊の取組がしっかりと推進されてゆくとみられることから、今後の指導は必要ないと考えている。

事業実施主体名：長万部町観光地域づくり協議会

令和5年8月24日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
北海道 長万部町	令和元年度	通過型から滞在型へと観光客を呼び込めるように、農業・漁業を中心とした新たな体験コンテンツの造成を図り、農林水産関連の消費拡大を図るとともに、新たな観光として「農泊」を定着させる。	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

新型コロナウイルス感染症の影響がある中、その合間を縫って活動を行い、計画の事業内容はおおむね実施された。また、実施体制もおおむね整備され、事業実施に支障をきたしていないが、事業実績についてはコロナの影響により来訪者数が減少し、「売上高」及び「延べ宿泊者数」のいずれも目標には大きく及ばなかった。

事業で構築された推進体制を維持しながら、研修等で取得したスキルを活かし、造成された体験プログラムの商品化につなげるとともに、引き続き一般客や旅行者へのPR等の普及啓発に努めて、「売上高」と「延べ宿泊者数」の目標達成に取り組むこと。

2. 低調と評価された要因

「売上高」及び「延べ宿泊者数」のいずれも目標には大きく及ばなかったため。

3. 目標達成に向けた方策

長万部町においては、隣接する豊浦町及び黒松内町との3町で「はしっこ同盟」を結成し(平成31年4月に調印)、3町で連携して旅行プランを造成するなどの取組を行っている。長万部町においては、農泊推進対策で造成した体験コンテンツは概ね受入可能な状況であることから、「はしっこ同盟」での観光プランの中に体験コンテンツを入れるなど、長万部町以外の町においても観光客を受け入れていく中で、事業実績を伸ばしていく。

4. 改善状況

令和4年度の実績は、達成率として、売上高で4.5%、延べ宿泊者数で7.5%と大変厳しい結果となった。要因としては、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響が残っていたことに加え、「はしっこ同盟」での旅行プランの販売も始まったばかりで、まだ軌道に乗っていない状況であったことが挙げられる。

更に、新幹線延伸工事に伴い、工事関係者の需要により宿泊施設の空が少ない状況で、農泊等に係る大人数の受け入れが難しい状況であり、急激な回復は望めない状況にある。

しかしながら「はしっこ同盟」での取組から派生して、旅行会社から長万部町で宿泊・体験プランを実施したいという要望が入るようになり、実際に令和5年秋には30人の旅行プランが予定されているなど、宿泊・体験の受入が回復する見込みも出てきている。

事業実施主体名：新十津川農泊推進協議会

令和5年8月24日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
北海道 新十津川町	令和元年度	新十津川町の農業生産や景観、歴史、既存施設を活かした体験メニューの開発や加工食品づくりなどを行い、リピーターの確保も含めた体験宿泊交流の促進を図る。	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

事業の取組については計画された内容がおおむね実施され、実施体制についても協議会構成員が協力して、計画どおりの実施体制が整備された。しかしながら事業実績については、新型コロナウイルス感染症の影響により目標に大きく届かなかった。

今後は、これまでに構築した体制を基に、開発した体験コンテンツや料理メニュー等の活用に加え、近隣の新たな地域資源の発掘と関係機関等との連携を図ること、広域での受け入れを検討するなど、広がりを持った取組を検討すること。併せて拠点となる宿泊施設の機能を強化し、地元産品を重点的に配置して効果的なショーウィンドウとして活用するなど、地域の魅力を戦略的に発信すること。

2. 低調と評価された要因

「売上高」及び「延べ宿泊者数」のいずれも目標には大きく及ばなかったため。

3. 目標達成に向けた方策

事業で構築した実施体制をもとに、地域内での体験コンテンツを強化することに加え、地域(新十津川町)を超えた範囲(空知地域等)のコンテンツとも連携した、広域での観光受入を行うことにより、売上高と延べ宿泊者数の増加を図る。さらに、拠点施設である宿泊施設において、情報発信機能を強化し、地域の魅力を戦略的に発信する。

4. 改善状況

令和4年度の実績(達成率)は、売上高は89.0%、延べ宿泊者数は65.7%と、目標値には達していないものの、おおむね成果を挙げている。

コンテンツとしては「酒蔵見学と日本酒のみ比べ宿泊プラン」、トマト農家による「ヒーリングヨガ教室」を実施する他、十津川寿司をセットとした宿泊プランも実施している。さらに、隣接する浦臼町にも範囲を広げた、「ジビエ処理加工センター見学とジビエ料理を楽しむ宿泊プラン」「牛肉とワインを楽しむ宿泊プラン」の2つを現在、計画している。また、実績値にはカウントしていないが、拠点の宿泊施設でエゾシカ肉の料理を提供したところ好評であったこともあり、エゾシカによる森林や農作物への被害とジビエとしての利用といった、ストーリーとして旅行者に投げかけるコンテンツの造成も考えているとのことである。

さらに、空知地域内での連携にとどまらず、石狩市、留萌市、増毛町といった海沿いの地域にまで広げた連携も視野に入れて検討していると聞いている。

地域内での体験・宿泊の実施も軌道に乗ってきており、また広域での連携も実施するなど、戦略的な農泊の推進ができる体制が整ってきており、今後とも自立して農泊に取り組むことができると考えられることから、今後の指導は必要ないと考えている。

事業実施主体名: ピロロツーリズム推進協議会

令和5年8月24日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
北海道 広尾町	令和元年度	農業・漁業・林業・商業がリンクした体験観光の町を目指し、観光コン テンツの開発や体験プログラムの連携を図るとともに、継続的な取組 となるよう、地域の農泊を推進する体制整備を行った。	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

取組状況については計画で定められた内容が実施され、実施体制も計画どおりの役割分担のもとで事業が実施された。協議会構成員2名による中核となる法人も設
立され、事業要件も満たしている。しかしながら、事業実績については、新型コロナウイルス感染症の影響により、来訪者の減少、宿泊や飲食の売り上げの減少が著し
かったことなどから、「売上高」「延べ宿泊者数」のいずれも大きく目標に届かなかった。
事業期間中から、事業後も見据えた取組がなされたことから、事業の成果を活かして、十分な成果を挙げることを期待したい。

2. 低調と評価された要因

「売上高」及び「延べ宿泊者数」のいずれも目標には大きく及ばなかったため。

3. 目標達成に向けた方策

事業により構築された実施体制に加え、新たに確保できた人材(地域おこし協力隊員)も活かし、開発された体験プログラムの商品化や、継続的なプロモーションによる
地域の魅力の発信に努める。
協議会の構成員2名で設立した中核法人が中心となって農泊を進めるが、当該法人は宿泊施設(令和4年夏に開業)の管理委託を受けていることもあり、こういった体
制を活かして、宿泊と体験が一体となった受け入れを推進していく。

4. 改善状況

令和4年度の実績については、達成率として、売上高は96.8%と計画に位置付けた目標をほぼ達成しているものの、延べ宿泊者数は38.5%と伸び悩んだ。水産関係
の体験(特にコンブ関係の体験)の受け入れが多いが、体験と宿泊を組み合わせられず、日帰りが多くなってしまっている。
他方、中核法人では、一軒の家を宿泊施設として開業する準備をしており、また町から管理委託されている施設の活用も進めることなどにより、宿泊者数の増加を進め
ていくことができている。
また、令和4年度には修学旅行生の受入について要望があったものの、既存の体制では受け入れられず断念した経緯があるため、今後そういった需要も取り込んでい
く計画である。

事業実施主体名: 東神楽町農泊推進協議会

令和5年8月24日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業・人材活用事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
北海道 東神楽町	令和2年度	地域商社を独立起業することで、自主自立した事業基盤を確立し、空港がある立地特性を活かして通過型＋宿泊型の農泊を推進するため、農業を中心としたコンテンツの造成などに取り組んだ。	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

取組については計画に定められた内容が行われ、計画どおりの実施体制も整備された。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により来訪者が大きく減少し、「売上高」「延べ宿泊者数」とも目標の達成には大きく及ばなかった。
食事メニューや体験プログラムの開発などは目標数を上回る取組ができていることなどから、これら事業での成果を活かして、十分な成果を挙げることを期待したい。

2. 低調と評価された要因

「売上高」及び「延べ宿泊者数」のいずれも目標には大きく及ばなかったため。

3. 目標達成に向けた方策

当初の計画どおり地域商社が発足したため、ここが中心となって農泊を進めていく。事業で創出した体験コンテンツや食事メニュー等を活用して、魅力的な農泊地域にするとともに、来訪者を増やすためのPRを積極的に行うことなどにより、売上高や宿泊者数の増加に取り組む。

4. 改善状況

令和4年度は、延べ宿泊者数で64.0%とおおむね実績を挙げたものの、売上高は47.3%と目標には大きく及ばなかった。
農作物に係る体験プログラムが5種類(アスパラガス、ジャガイモ、とうきび、ブルーベリー、米)整備された。しかしながら、令和4年度は、まだ新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、人気のあるアスパラガスの収穫体験では、直前にコロナの影響で開催を断念した経緯があるなど、特に当地域はグリーンシーズンの体験が大半であることから、その影響がより大きく出る結果となってしまった。
予定通り「東神楽地域商社」が設立され、また、商社が運営する複合施設「東神楽大学」もオープンした。「東神楽大学」にはゲストハウスがあり、宿泊を受け入れられる他、シェアキッチンやレンタルカフェ、コワーキングスペースなども整備されている。シェアキッチンは菓子製造業の許可を得ており、事業で開発したメニュー「ひがしかぐらケーキサレ」をここで製造し、販売することも考えているとのことである。この他、地域の農産物を加工した「ひがしかぐらジャム」の売上が好調である。
地域商社は民間企業が運営するものだが、東神楽町としてもこの発足のため、地域おこし協力隊員3名を雇用するなど、積極的に推進している。

事業実施主体名:赤井川村農泊推進協議会

令和5年8月24日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要(農泊推進事業)	取組概要(施設整備事業(活性化整備計画に基づかない))
北海道 赤井川村	令和3年度	『農業と食』、『食と遊び』、『遊びと農業』といったような、様々なお客様ニーズに合わせた多彩なプランを設計、開発するために、様々な体験コンテンツや食メニューの開発等を行う。	—

1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

計画に定められた取組内容はおおむね実施され、実施体制も中核法人が中心となり、おおむね計画どおり整備された。しかしながら、コロナ禍における来訪者等の減少の影響は大きく、「延べ宿泊者数」についてはほぼ実績がない状況となってしまった。
他方で、「売上高」については、開発した食事メニューの提供など一定の実績を挙げており、コロナ禍における取組の中で実績を挙げていることは評価できる。
今後も事業計画に基づく取組を着実に実施することにより、確実な事業効果の発現を期待したい。

2. 低調と評価された要因

「延べ宿泊者数」について、ほぼ実績がな状況となってしまったため。

3. 目標達成に向けた方策

更なる合意形成に取り組み、実施体制の構築を図ることにより、受入体制を整備すること。開発した食事メニューの販売は、売上高の面で一定の成果があったことから、引き続き推進するとともに、令和3年度に実施できなかった体験コンテンツの開発を進めること。積極的な情報発信による地域の魅力のPRなども併せて行うこと。

4. 改善状況

令和4年度は事業期間2年目であり、体験コンテンツの造成(農業体験に係るモニターツアーの実施や雲海朝食の試行、黒曜石のコンテンツ化への検討)、食に係るメニューの開発等を行い、実際にトマトラーメンソースや赤井川饅頭(かぼちゃ)、トンジスカン井、赤井川産豚汁は実際に販売されている。農業体験の他、越冬野菜も含めた地域の農作物の活用という面でも、農業者とのつながりも構築されている。さらに、ツーリズムエキスポへの参加や、作成したプロモーションビデオをウェブサイトで公開するなどにより、PRの取り組みも行っている。

以上のように取組は概ね計画通りに実施されたものの、令和4年度においては、収容人数の多いスキーリゾート内のホテルが夏の間休業したことや、その他の宿泊施設についても、新型コロナウイルス感染症の影響により休止していたことなどから、「延べ宿泊者数」については低調な結果となった。